

調 査 ・ 研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名：きずな

報告者：八谷文策

実施場所：林野庁林政部。環境庁大臣官房室廃棄物対策課。	実施日：7月26日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 木材利用課木材バイオマス推進班、課長補佐杉崎氏よりの説明。 事前に訪問目的を送って庄原市の課題である、成熟林分の利用方法の内間伐材等の利用に関するより良い補助体制に付いての見解を伺う。 2 廃棄物焼却施設のより良い建設に関しての意見交換。 	
<p>■参考とすべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 数々の補助体制が組んでいるが、これを使うことは条件を整えることで有り、各市で良く検討して当てはめて欲しい。現在の補助体制では売電目的の施設に対しての補助は考えていない。 2 廃棄物焼却施設の余熱等を利用した地域低炭素化モデル事業を用意しているが、庄原市ではこれに取り組む時間的余力が無いと聞いている。庄原市の計画どおりに進めることとなります。 	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 上野村ではペレットガス化発電で大変先進的事業を起こしていると聞いて見にいっただが、環境省、農林水産省による指導、協力のもと見事な施設を作り上げて居ますね。その他沢山のメニューの中から選ぶのは市町であり、実施団体であるので、どんどん名乗り出て現実のものにして欲しい。それに付いてのお手伝いは幾らでもさせていただきます。先ずは自らが決断し実行されることでしょう。 2 廃棄物焼却施設建設については庄原市の事情に合わせた最良の施設を完成してください。それに対する支援援助は惜しみません。 <p>農林水産省、環境省共に多くのメニューを用意しているので市町の事情に合わせて使うようにとの指導で有った。</p>	

※ 調

査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

平成 28 年 8 月 1 日

調 査 ・ 研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名：きずな

報告者：八谷文策

実施場所：富山市	実施日：7月27日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <p>市内交通の有り方に付いて、大都市の形態の中に庄原市に於いて参考とするシステムは無いか交通弱者に対する考え方を学ぶ。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>面積では庄原市に匹敵する面積に42万人が生活する大都市であり又、県庁所在地である富山市に於ける施策はどの様に有るのかを現地の町を見ることにより知る。</p> <p>お出かけ定期券事業である。</p> <p>この事業は市内在住の65歳以上の方が市内各地から中心市街地へ出かける際に、9時から17時の間に降車すれば、路線バス、地鉄電車、市内電車、まいどはやバスを100円で利用できる制度である。更にこの定期を示すことで中心市街地に有る約60の協賛店で商品の割引又、約30の市施設を半額（一部無料）で利用できるなど様々の優待サービスが用意されている。現在高齢者の24%が利用している。</p>	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>庄原市に於いては何処を中心市街として進めて行くのかがはっきりしていない為、おのこの町でその事が出来るのかに依るが、参考として考えるに足るものと思われる。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調 査 ・ 研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名：きずな

報告者：八谷文策

実施場所：金沢市	実施日：7月29日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <p>21 世紀美術館の理念とその経営方法をしる。 我が庄原市には美術館が無い。これは庄原市の将来を担う児童、生徒にどのような影響が有るのかを知る為に、その一つとして、感覚的に新しい手法で建設されたと聞くこの金沢市立 21 世紀美術館を選んだ。金沢市兼六園と隣接する地にどのような建物が建設されているのかを、現地の建物を見ながら、管理運営する担当市職員より話を聞く。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>美術館の目的と方針①新しい文化の創造②新たなまちの賑わいの創出。この目的と方針に従い、4つのミッションを決める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 世界の「現在（いま）」とともに生きる美術館 2 まちに生き、市民とつくる、参画交流型の美術館 3 地域の伝統を未来につなげ、世界に開く美術館 4 子供たちとともに、成長する美術館 <p>この基本ミッションに従い自主事業、貸館事業、地域との連携を基本に事業が行われている。有料部分と無料部分の使い分けで、市民が1日中遊ぶことが出来る、童子からお年寄りまでが集える広場となっている。3 世代 4 世代がそれぞれの時間を過ごす事の出来る美術館で有ると共に、勉強、遊び、居眠りそしてお茶室によるくつろぎ等が1箇所に集められている。まさに総合的心の癒し場所と捉えることの出来る素晴らしい空間の中に、それぞれに利用者が自由に作り上げる事の出来る美術館に成っている。</p>	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>庄原市の美術に関する感性をどのように伸ばしていくことが出来るのか、小さな町に住むことでどのような育ち方をしていくのか、私たちの責任であり、より多くの感性を育てる環境を作る事の大切さが問われる思いで、素晴らしい金沢 21 世紀美術館を見ていた。単に垂涎の的のみ見るのか、庄原にも素晴らしい歴史が残されているのに今は人口が少ないとか予算規模が小さいとかを先に考えること無く、この辺境の地に庄原英学校を作り格致中学校を作ったこの風土、本当に出来たら良いなと感じます。</p> <p>勿論、各地に素晴らしい施設が作られて居るこの時代、全てを欲しがるとは無いが、庄原市にも歴史的遺産と美術、文化に貢献した多くの方々がいらっしゃるのと、施設の点在により現存する大切な価値有るものを一つに纏めることも大切な事と思う。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調 査 ・ 研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名： きずな

報告者： 林 高正

㊦

実施場所：農水省（林野庁）及び 環境省	実施日：平成 28 年 7 月 27 日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <p>●本市の面積（1247.7 km²）の実に 84%が森林でありながら、荒廃林が増え続けており、自然災害の発生も危惧されています。その森林資源をどうやったら有効活用できるかが、大きな課題です。</p> <p>●ゴミ焼却施設を更新する計画を進めている本市ですが、ゴミは減量化できず、逆に増加傾向にあるのが実態です。将来的な人口減少等を踏まえ、適正な規模、ゴミの処理方法等を早急に決める必要がある。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>林野庁においては、「県と相談しながら」なんて言葉を何度も言われるので、何のために東京くんだりまで来たのか、自分で自分に腹立たしささえ覚えた。よって、参考とすべき事項はありませんでした。机についてばかりでは、林業のことが理解できるとは到底思えません。もっと、現場に出て、先進地に勉強に行き、色々な皆さんの意見を聞いて、頑張りたいと本気で思いました。</p> <p>環境省の方との意見交換では、日本は焼却によるゴミ処理が主流であるが、小規模で建設コストや運営コストも高く、行政負担は重いと言わざるを得ない現実があることが良く理解できました。私は、もう少しメーカー負担を明確化すべきと思います。</p> <p>ゴミ処理問題解決の一番の近道は、ゴミを出さないことにある。</p>	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>林野庁においては補助金のメニューばかりが先行しているのではないかと思えるが、活用できるものは活用すべきであり、そのためには、市の林業政策の基本線を押さえておく必要がある。場当たりのでは何事も上手くいかない。</p> <p>新たなゴミ処理施設を整備する方向で動いているが、あまりにも遅きに失したと言わざるを得ない。現在のゴミ処理施設は、ただ単にゴミを焼却すれば良いと言う時代ではなく、自動分別であったり、メタンガス発酵による発電であったり、排熱利用であったりと、複合的に活用するのが当たり前になってきている。更には、広域連携によるコスト削減も視野に入れた取り組みの推進が望ましい。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調 査 ・ 研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名： きずな

報告者： 林 高正

㊦

実施場所：富山市交通政策課	実施日：平成 28 年 7 月 2 8 日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <p>富山市が進める「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」について視察研修する。庄原市とはほぼ同等の面積を有する富山市ですが、自動車保有台数が全国 2 位ということで、公共交通が徐々に衰退してきていました。そうすると、自動車を自由に使えない人（市民の約 3 割）にとって極めて生活しづらい街となっていたのです。このことは、庄原市にも当てはまることであり、ヒントが頂けるものと期待して訪問しました。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>富山市は固定資産税の確保が重要との判断から中心市街地の活性化策として住民が中心部に集まる仕組みを考えました。税収が上がらないと財政が窮屈となり事業が行えなくなってきました。そうすると、市全体が沈んでいくからです。</p> <p>そこで、手を打ったのが、都心地区・公共交通沿線居住推進地区の設定と居住人口の目標設定を行いました。推進地域に良質な住宅を建設する業者や購入する市民に助成し、移住を促しました。そういう推進地区をお団子に串を刺した様にして公共交通で結んでいったのです。そして、推進地区の住民が中心市街地に集まる仕掛けを色々と考え実行に移していきました。あの有名な LRT (Light Rail Transit) の導入により、過度に車に依存したライフスタイルを見直し、歩いて暮らせるまちを実現したのです。</p> <p>中心市街地に、グランドプラザという多目的広場を整備し、年間を通して各種イベントが開催でき、人が集える様にしました。また、65 歳以上の高齢者を対象に市内各地から中心市街地へ出かける際は、公共交通利用料金を 1 回 100 円とする割引制度を実施。</p>	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>「公共交通を軸とした」と書き出しましたが、全くその通りで、公共交通はあくまで軸であることが良く理解できました。市の周辺には何もないのではなく、賑わいは中心市街地にあるという、ヨーロッパのまちの作りに似た富山市を創っておられるのです。ですから、マルシェがあつたり、地場もん屋総本店（支店は市内各地にあり）という中心市街地に立地する農産物の情報発信と販売促進の拠点を整備したり、地域包括ケアの拠点施設を整備したりと、あらゆる手を打っておられます。まだまだ、書けば切りがないのですが、市内をバラバラで動かすのではなく、移動手段を明確にすることで、中心市街地に人が集まる各種仕掛けが成功しているのです。バスの移動に関しても、地元事業者が経営計画を示して手を挙げれば、バスは市が無償で貸与するというも行われています。前述の、LRT にしても全国初となる、上下分離方式で運営されています。軌道と車両は富山市で、運行は民間会社という具合です。私は常々、「真似ることは最大の創造」と言っておりますが、真似るなら仕組みから組織、運営方法までを全て真似る必要があると思います。庄原市に大いにヒントとなる取り組みであることは間違いありませんので、市長部局に政策提案していきたいと考えています。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名： きずな

報告者： 林 高正

㊦

実施場所：金沢市 21 世紀美術館	実施日：平成 28 年 7 月 2 9 日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <p>庄原市には美術館がありません。メインが図書館である田園文化センター、貸館業務が主な市民会館という二つの施設がありますが、田園文化センターは図書館としては非常に狭く、閉架図書のコレクションにも苦慮しています。また、市民会館は老朽化が激しく、どこから雨漏りがしているのか分からない状態であることや、各種備品等も時代にマッチしないものと言えます。</p> <p>金沢市の 21 世紀美術館は、常設展示の美術館と言えますが、貸館施設でもあり、子育て支援施設やミニ図書館も内蔵する、正に複合施設と言えます。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>計画が発表された当時は、「必要だ」、「必要ない」という侃々諤々の議論があったようですが、具体的なコンセプトが示されたことで流れは、「開館」となったようです。先ず、建築の考え方は、「まちに開かれた公園のような美術館」で、裏と表のないガラスで囲まれた丸い建物で、「気軽さ」「楽しさ」「使いやすさ」がキーワードだそうです。</p> <p>美術館周辺のお食事処やお土産物屋さん、ホテル、旅館などあらゆる業種の方々が美術館のサポートショップとして登録されており、双方にメリットがある企画が展開されました。当初は、年間 30 万人の来館者という想定だったそうですが、北陸新幹線の開通もあり、27 年度は 230 万人の来館者となったそうです。これまでは隣の兼六園に来たついでだった美術館が、「21 世紀美術館に行く」という逆転現象もおきているそうです。</p> <p>私は今回で 6 回目位の訪問だったのですが、初めて施設の成り立ちから経過、現在の状況を聞かせて頂いたことで、金沢のまちの変化が理解できました。最初、21 世紀美術館が無かった時代は、兼六園の観光だけのまちだったように思います。</p>	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>冒頭、庄原市には美術館がないと書きましたが、庄原市だけが所有すると考えれば無理があります。実は、金沢 21 世紀美術館の収蔵品にはそれほどのという表現は失礼かも知れませんが、高額なものはないそうです。将来的に価値が上がるものを中心ということでもないみたいで、お陰で、収蔵庫が満杯で困っているとおっしゃっていました。</p> <p>○参画交流型の美術館○地域の伝統を未来につなげ、世界に開く美術館○子どもたちとともに、成長する美術館を金沢 21 世紀美術館は目指しておられたことが現実となっているのです。最初は、200 億円から用地買収と建設費がかかりましたが、とっくに回収できており、今では金沢市に大きな利益を与え続けています。</p> <p>さて、庄原市に対する提言ですが、富山市の公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりを参考にして、賑わいを創出する核施設として美術館、図書館、貸館、レストラン、物販、交通拠点施設を纏めて整備すべきだと思います。これはあくまでも林試案ですが、簡保の郷周辺が適地かと考えます。こんな夢みたいな事業が実現できればいいですね。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

平成28年8月1日

調査・研修報告書（会派個人用）

報告者：徳永泰臣 ㊦

実施場所：東京都霞が関 林野庁及び環境省	実施日：平成28年7月27日
■目的・課題・問題事項 <ul style="list-style-type: none">○ 木質バイオマスの利活用について○ 庄原市ごみ処理場の更新に伴う意見交換	
■参考とすべき事項 <p>○施設整備等について、林野庁としては、次世代林業基盤づくり交付金などがある。需要に応じた低コストで効率的な木材の生産、供給、木材加工流通施設、木質バイオマス関連施設、苗木生産施設等の整備などを総合的に支援する事業である。民間事業所むけに経済産業省の事業で、全国で数か所選定して行っているほか、環境省の事業などもあり、やり方によって様々有利な事業があることが分かった。</p> <p>○庄原市も平成33年には新しいごみ処理施設建設が迫ってきている。現在、日本のごみ処理施設の7割が余熱利用され、3割が発電設備を有しているとのことであり、本市としても、こうした取り組みも併せて考えていく必要性を感じた。</p>	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） <ul style="list-style-type: none">○ 木質バイオマスについても、庄原市として本気で取り組んでいく必要性が迫っている。森林の有効な活用について、企画建設常任委員会としても行政視察でこの取り組みを視察の予定であり、執行者に対してしっかりと提言していきたい。○ ごみ処理についても、施設の更新も迫っており時間もない中ではあるが、ごみの減量化、そして廃熱の有効活用についてもスピード感をもって取り組んでいただきたい。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

平成28年8月1日

調査・研修報告書（会派個人用）

報告者：徳永泰臣 ㊦

実施場所：富山県富山市	実施日：平成28年7月28日
■目的・課題・問題事項 ○ 富山市の公共交通を軸とした、コンパクトなまちづくりについての視察研修	
■参考とすべき事項 ○ 富山市の面積は庄原市とほぼ同じ1,241 km ² 、人口は10倍の42万人で、やはり広大な面積の中、本市と同じような問題を抱えておられ、それを解決するために、富山市のまちづくりの基本方針「コンパクトなまちづくり」を実践されている。鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを実現されている。 ○ これを実現するための三本柱 ①公共交通の活性化 ②公共交通沿線地区への居住促進 ③中心市街地の活性化 を図るための様々な施策を展開されている。 ○ その一つとして、JR高山本線活性化で平成18年度から増発運行を核とした取組みを社会実験として実施されている。具体的には、駐車場の整備、駅前広場、トイレ、駐輪場の整備に加え、フィーダーバスの運行やポケット時刻表の作成など、利用促進施策を実施されている。	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） ○ 本市としても、公共交通を核とした、その沿線への居住の誘導、そうした中でのコンパクトシティ構想といった事が大切ではないかと思う。 ○ そのためには、現在ある鉄軌道を守るための利用促進を図り、12の駅を中心としたコンパクトシティを考えていく必要があると考える。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

平成28年8月 1日

調査・研修報告書（会派個人用）

報告者：徳永泰臣 ㊦

実施場所：石川県金沢市 金沢21世紀美術館	実施日：平成28年7月29日
■目的・課題・問題事項 <ul style="list-style-type: none">○ まちに生き、市民とともに作る参画交流型、子供とともに成長する金沢21世紀美術館の性格を視察研修。	
■参考とすべき事項 <ul style="list-style-type: none">○ 美術館の目的と方針は、まちと共に成長し、「新しい文化の創造」と「新たなまちの賑わいの創出」に資することであり、金沢の都市の魅力を高め、世界に向かって文化を発信、歴史性と現代性の対比を実現し、新たなまちづくりを推進する。○ 4つのミッションとして ○世界の「現在」とともに生きる美術館 ○まちに生き、市民とつくる、参画交流型の美術館 ○地域の伝統を未来に繋げ、世界に開く美術館 ○子供たちとともに成長する美術館を使命として、日々活動され、昨年は年間240万人の方が来館されている日本有数の美術館でありました。○ 建築の考え方としては、金沢21世紀美術館は金沢市の中心部に位置し、誰もがいつでも立ち寄ることができ、様々な出会いや体験の「場」となるような、公園の様な美術館を目指しておられ、建物は裏と表のないガラスのアートサークルが採用されている。夜間の開館や魅力的なショップ、レストランの展開など、利用者の多様なニーズにも対応できるような「気軽さ」「楽しさ」「使いやすさ」がキーワードの美術館です。	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） <ul style="list-style-type: none">○本市は現在、庄原市民会館、田園文化センターなど、いろいろな問題を抱えた施設も有しており、それらを総合的に検討していきながら、「気軽さ」「楽しさ」「使いやすさ」に重点を置いた施設の建設を検討すべきと考える。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名： きずな

報告者： 五島 誠 ㊟

実施場所：林野庁、環境省	実施日：7月27日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木質バイオマスの活用について ・ごみ焼却場の建て替えについて 	
<p>■参考とすべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情に見合ったサイズのものを作るのが現実的で一番大切な視点である。また、FITによる売電か自家消費かによってもしっかりと考えなければならない。FITでは建設の補助制度はなくなったことも考えなければならない。熱利用の施設であると補助がある。 ・技術開発の分野にも若干補助メニューを用意している。 ・再生エネルギーコンシェルジュの個別相談事務所が広島にもあり、そちらや日本バイオマスエネルギー協会などを窓口にする方が個別の事情に合った検討が行いやすい。 ・現在、民間事業者が計画から主体的に行う事業が増えており、それについては経済産業省が主導している。 ・本年度から焼却施設の熱利用にかかる配管についての補助事業が出来た。また、熱利用を行わないと交付金がゼロである。 ・メタン発酵や炭化など少しずつ事例が増えてきている。その際、使い先の検討を先に行わないと失敗の原因になる。 ・ごみ減量の啓発で一番効果が高いのは子供への教育。 	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ処理施設の再編は現在待ったなしの状況であるが、しっかりと計画段階から住民を巻き込んで（一部の方だけではなく）進めていく必要がある。ごみを減らす仕組みと同時進行で進めていかなければならない。また、エネルギー活用を考えた上での廃棄物処理は現在国も進めている状況であり、この時流に乗って物事を前進させるように検討をしなければならない。 ・木質バイオマスの利用についてはペレットも含めてしっかりと前に進めていく。その際コンシェルジュなどを十分に活用すると同時に、よそのものをそのまま真似るのではなく、じっくりと現地での技術確立も行わなければならない。 	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名： きずな

報告者： 五島 誠 ㊟

実施場所：富山県富山市	実施日：7月28日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり ～コンパクトシティ戦略による都市経営の構築～ 	
<p>■参考とすべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山市の面積は1200km²を超え、その中に40万人の人口を抱える。海拔0m～約3000mまでの多様な地勢を有し、一般会計予算が1557億円である。庄原と面積などは似たようなところであり、人口は10倍違うという市である。 ・人口減少や過度な自動車依存、割高な行政コストなど様々な課題がある中で、現在の市長のリーダーシップの元、公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりをすすめている。 ・公共交通の活性化、公共交通沿線地区への居住推進、中心市街地の活性化を柱にしている。 ・特にまちなか居住推進という事で住民のみならず建設業者に共同住宅の建設の補助などがボリュームを持って進めている。 ・おでかけ定期券事業という事で65歳以上の方を対象に市内各地から中心市街地へ出かける際の公共交通利用料金を1回100円とする割引制度の実施（年間約1億円）、多目的広場などの建設や、自転車共同利用事業、フラワーハンギング事業などを行っているほか、祖父母と孫がお出かけする際の補助事業なども行っている。 ・公民連携による健康拠点、地域包括ケアの拠点施設や、ガラス美術館と図書館の複合施設も整備していつている。 ・効果として中心市街地の民間投資の活発化や公共交通の利用の増加、転入人口、中心地への移動の増加などがあげられている。 	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在庄原市では公共交通に約2億5千万のいわゆる赤字補てんを行っているが、発想を転換し、同じ補助でも住民の利用促進につながる、利便性の上がる方法を考えていかなければならない。ゆるやかな中心地への誘導施策は庄原市でも検討実施を行っているところだが、それによって住民の利便性などが上がる施策を柔軟なアイデアで行う必要がある。 ・田園文化センターの建て替えや市民会館、庄原自治振興センターの今後を検討する中で公民連携や複合施設の検討なども行い、せっかく整備するならそれによってまちの魅力の上がるものを検討しなければならない。お金がないならアイデアで。 	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名： きずな

報告者： 五島 誠 ㊟

実施場所：石川県金沢市	実施日：7月29日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金沢21世紀美術館を活かしたまちづくり 文化芸術の取り組みを観光や教育へ生かす。 図書館や市民会館の建て替えをまちの魅力アップに生かす。 	
<p>■参考とすべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺環境に調和した美術館、まちや市民と一体となった美術館、近現代の多様な表現形式による今日的な美術館。 ・美術館の方針はまちと共に成長し「新しい文化の創造」と「新たなまちの賑わいの創出」に資する目的で、「金沢の都市の魅力を高め、世界に向かって文化を発信」「歴史性と現代性の対比を実現し、新たなまちづくりを推進」 ・入館料のいないフリーゾーンもあり、市民活用がなされている。また、自主事業という事で展覧会や教育普及事業、芸術交流事業が行われているほか、貸館業務による市民ギャラリーや公演、ワークショップの開催などに加え、地域との連携事業で商店街を含めたアートまち歩き事業やグッズ開発、大学などとの連携も行われている。 ・当初、反対運動などもあり心配をされていた事業であるが、現在年間二百万人を超える来館者があり、その経済効果も大きい。周辺の兼六園などに加え新たな金沢の魅力となっている。 ・美術館そのものの魅力に加え、地域や企業、学校との連携による戦略的な広報、啓発活動が身を結んでいる。また、交流を盛んに行っており、それによる相乗効果も大きい。 	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民会館や図書館を立て直す際に、このようなそれ自体が魅力ある建物である事と地域や企業、教育施設や他都市などとの盛んな交流の図れる施設を作っていく事が大変重要だ。また、庄原市には美術館のような施設がない。市民ギャラリーの活用を図る意味においても多様な庄原の文化の拠点となる施設整備は必要と感じる。金沢21世紀美術館のような大掛かりなものを難しいと思うが、そのマインドには学ぶべきところが多いと思う。地域と一体となれる文化芸術の拠点をどのように気づいていくのかも視点に組み込んで整備を検討する必要がある。 	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。